

孤独化する社会の中で働き続けるために ～戦後80年の変化で予見されること～

◆講師：関西福祉科学大学

名誉教授 三戸 秀樹 先生

◆日時：2022年7月31日（日）14時～17時15分

◆開催方法：ZOOMによる開催

*申し込み受付者に、後日、ミーティングID、パスワードを送付します。単位が欲しい方は、終了後簡単な受講報告の提出をお願いします。

◆受講料：会員2,000円、一般3,000円

◆単位：2単位申請中

労働衛生の歴史は、労働災害の戦いと歴史といっても過言ではありません。労働災害も事故・怪我などから様々なストレス関連疾患へと移り変わっている様相が見えます。

その背景には、終戦から現在に至る80年の歴史の中の、家族制度の変化や少子高齢化、ICT社会の到来等様々な要因がからんでいると思われます。今回発生したコロナ感染症に関連して引き起こされている様々な問題も大きな要因の一つといえるのではないのでしょうか。

そこで今回は、長年にわたり職場のメンタルヘルス問題にかかわってこられた三戸先生をお招きし、歴史を紐解きながら、働く人々の孤独化の要因を探り、「孤独化する社会」の中でも、快適に働き続けるためにどのような対策が必要か一緒に考えていきたいと思います。

【講師からのメッセージ】

メンタルダウンした人に対し心的サポートをすることは、緊急避難的に重要です。しかし、このサポートを常態化して成り立つ生活は、不健康かも知れません。戦後、心的サポーターがまったくない時代を経て、現代は心的サポーターが多くいますが、上手く回っていません。労働者のダウンは止まりません。

群れて支え合ってきた人々が、分断され、孤独な生活を余儀なくされていることに大きな問題点を内包しているのではないのでしょうか。

～講師プロフィール～

「人間らしく生き生きと働く」ことの研究を追い続けました。理学部・物理学科卒業。文学部・心理学科学士入学。学部+大学院修士+博士課程を終え、医学部・労働衛生学の23年間、そして心理と福祉を標榜した社会福祉系大学を創設して15年間。この間に、財団法人・労働安全衛生研修所を運営し、さらに労働系メンタルヘルスに特化して、NPO大学院連合メンタルヘルスセンター(MHC)を2009年に創設しました。